

夜中のパフォー マンス

Sさんが三人目の下宿人となってから、いよいよ我が家は混沌(とん)とした状態に陥っていきました。Sさんは、目に触れる物のことごとくを自分の物だと言い張り、「私の物に触らないでください！」の聲が一日中飛び交います。

おまけに収集癖もあって、食後はテーブルの上をすぐに片付けなければ、食器・箸・ラッチオンマットに食べ残しのおかずまでが、Sさんの大きなバッグにしまい込まれました。それに触発されたのか、しばらく収まっていたKさんの収集癖も復活してしまいました。

衝撃的な光景を目にしたのは、ある夜中のことでした。まどろみの中、人の気配に目が覚めて周囲を見渡すと、ピアノの蓋(ふた)の上にKさんがしゃがんでいました。「どうしてピアノの上にいるんだろ？」と私が思ったその時、Kさんは忍びの者のごとくヒラリと飛び降り、次の瞬間ひっくり返っていました。着地失敗の原因は、Kさんが背負っていた大きな風呂敷包みだったようでした。

その風呂敷包みの中には、Kさんの湯呑

(の)み茶碗や服に混じって、Tさんの衣類が出てくるわ出てくるわ。

「なぜ、Tさんのパジャマやセーターや下着があるの？」

「いつ集めたの？」

「どこに行くつもりだったの？」

「落ち着いてくると、私の中で疑問が次々と生まれ出しました。ご本人に聞いても

「オラのもんだ！」と、言い張るばかり。夜中の押し問答は不毛なばかり。その夜はKさんを「二度と離すものか」とば

花風屋繁盛記

連載 7

人と人がつながって

花風のもの、みんなのもの

翌朝、眠っているK

かりに、抱え込んで眠りにつきま

「なぜ？」

なぜかという

半分はSさんのバッグにしまい込まれていたのです。Tさんは住む家にこだわりました

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」

「なぜ？」



NPO法人在宅生活支援
サービスホーム花風

木村美和子理事長

方でしたので、お二人の「収集合戦」の標的になってしまったようでした。その後同じことが繰り返され、頭を抱えた私は「家族会議」を招きました。

ようこそ我が家

「これは、Tさんの物。これはこの下宿の物」と言いながら、お二人の収集品を区分けしているうちに「そう言ええば」と、気が付きまし

た。私自身が、「下宿の物」私の物」というこだわりを持ってたの時、「誰かを迎える

「今日のお客さんは、○さん○さん」

「包丁なんか持たせて大丈夫なの？」

「大丈夫に決まってるじゃないですか！この見事な皮のむきっぷりを見てわからないのですか？」



花風下宿のみんなも参加しての会議。家族会議は1号館時代から今も続く

だということに。「あのね、テレビもテープもみんなの物だから、しまわなくても逃げて行かないから」

そう話した会議の後、事態が劇的に改善されたわけはありますが、私自身が変わった気がしました。取